

## 滝沢村・湯舟沢遺跡の足形付土製品について

岩手県立博物館

熊谷 常正

本資料は、一方の面に足形が押圧された土版状の土製品で、現存する部分での最大長55.75mm、最大幅55.10mm、最大厚17.10mmを測る小資料である。以下、いくつかの項目について紹介して行きたい。

### 〔胎土・焼成等〕

胎土には、小砂粒（黒色ガラス質粒が多い）を含み、焼成は良好。表面には微細なクラックも観察できる。足形が付された正面の色調は、橙色（7.5YR6/6～5/8）を基調とする。裏面には黒斑があり、黒褐色（7.5YR3/1～2/1）を呈するところが多い。

### 〔形状等〕

本資料は、足形の踵部分が欠損している。その破損部断面中間部に横走る小さな空隔がみられる。これは接合面（粘土の折り返し面の可能性がある）と考えられ、裏面の粘土を覆うように正面の粘土が積み上げられているのを看取できる。

裏面には植物繊維の圧痕が付く。その方向は資料長軸に対しほぼ平行する。同様の圧痕が正面にも僅かであるがみられる。この圧痕には、編みや単位等は、特に観察できない。側面には整形のためのケズリがあり、足形押圧後に成されている。資料はほぼ扁平な板状で、足形に沿うような形にまとめられている。

### 〔破損部の観察〕

正面の破損部には、5ヶ所の凹凸があり、裏面はほぼ真直ぐな線となっている。正面右端には焼成後に削り取ったような傷が観察できる。また、断面はやや磨耗しており、通常の割れ口とは異っている点も看過できない。このようなことから本資料は、正面側から数ヶ所の打撃を加え、故意に打割したものと考えられる。

### 〔足形の状態〕

本資料に押圧されている足形は、その大きさ等から小児の左足圧痕であることがわかる。圧痕を見る限り、土踏まちはあまり発達していない。足指は明瞭に押されているが、特に第二指、第五指が深く入り込んでいる。第一指には足趾文も僅かであるが観察できる。第二指のつけ根部分には、長さ1cm、幅約2mmの線が二本、接してみられる。これが何に由来するかは不明であるが、後述する北海道・新道4遺跡資料の同様な部位に円形刺突があることを考えると何ら

かの意味があるものと推定される。足形の詳細な計測値等は、平沢彌一郎博士の論攻を参照していただきたい。ただし、一般に土器や土製品等の粘土で作られる資料は、乾燥・焼成の段階で、10～20%収縮するものであることを申し添えておく。

#### 〔出土状態〕

本資料は、湯舟沢遺跡第Ⅷ地区 IX In グリッド第Ⅱ b 層から出土した。しかし、特定の遺構や明確な伴出遺物は伴わず、単独の状態での出土である。

#### 〔所属時期〕

上記のような出土状態のため、詳細な時期を決定する直接的な資料はない。出土地区の第 8 区の土器は、本報告書で第Ⅳ群とした縄文時代後期に属するものが多く、ほかに中期(第Ⅲ群)、晩期(第Ⅴ群)も僅かながら出土している。特に主体を占めるのは、後期前葉の土器で、それらの胎土・焼成等は本資料に共通するものが多い。また、本資料裏面にみられる植物繊維の圧痕は、この時期のいくつかの土器底部にみられる植物繊維の圧痕(例えば887頁、土器底部参照)と類似する。このような点から本資料は、第Ⅳ群 3 : 4 類等の時期で、縄文時代後期前葉のものと比定できよう。

#### 〔類似資料〕

次に本資料に類似する例を簡単に紹介してみたい。

##### 1. 北海道千歳市・美々 5 遺跡(北海道教育委員会 1979)

(1)長さ 12.9cm、幅 9.5cm、厚さ 1.8cm。同遺跡のBP—4 土墳墓底面から、石器20点と共に出土した。土墳墓に伴う副葬品と考えられる。楕円形の扁平な粘土版に、幼児の左足が押圧されている。指の圧痕は明瞭だが、足の部分は判然としない。踵部分に焼成前の一孔がある。

(2)長さ 13.3cm、幅9.6cm、厚さ1.6cm。同遺跡Ⅱ黒層からの出土。(1)の資料と同様、扁平な粘土板に幼児の右足が押圧されている。やはり指だけが明瞭である。(1)と同様の位置には焼成前の一孔があく。

美々 5 遺跡資料の所属時期については、報告では縄文時代前期の旨の記載があるが、最近では後期の説が一般的である(金子 1982)。

##### 2. 北海道上磯郡木古内町・新道 4 遺跡(北海道埋蔵文化財センター 1984)

長さ 14.4cm、幅 6.3cm、厚さ 1.5cm。足形部分の横断面がやや凹む形で、右足の圧痕が付く。足指を除く足形に沿って沈線がまわる。第二指の付け根のその沈線上に刺突を施す。縄文時代後期。やはり踵部分に穿孔される。

##### 3. 青森県上北郡六ヶ所村・大石平遺跡(註1)

長さ 8.8cm、幅 6.2cm、厚さ 1.8cm。足指部分が最大幅をとる粘土版で、幼児の右足が

付される。他に、手形付土製品が2点出土している。縄文時代後期前半期。

#### 4. 青森県三戸郡名川町・虚空蔵遺跡（江坂 1960、可児 1964 他）

長さ 7.3cm。小児の右足の圧痕が付く。第一指つけ根から踵右側を結んだ下部が欠損する。裏面には一部指紋がみられるが、素地のままである。出土状態の詳細は不詳であるが、同遺跡出土の他の遺物から、縄文時代晩期初頭に属すると考えられている。

#### 5. 新潟県岩船郡山北村・上山遺跡（上原 1964他）

長さ 12.6cm。満二才前後の男児と考えられる右足の圧痕が付く。裏面には、編物圧痕がみられる。土踏まず側に焼成前の孔が三ヶ所あるが、一方は貫通していない。本資料は縄文時代後期末の包含層の下層から出土したという。重要文化財。

以上あげた資料の他、手形を付した土製品が、青森県大石平、宮城県遠田郡田尻町北小松遺跡（註2）、福島県いわき市愛谷遺跡等から出土している。また、足自体を模した土製品も、青森県青森市三内沢部遺跡（青森県教育委員会 1978）などいくつかの遺跡からの出土が知られている。

#### 〔名称について〕

以上紹介してきた資料について、次にその名称の検討を行ってみたい。

これまで出土している資料中、最も古くからその出土が知られているのは、青森県虚空蔵遺跡例である（註3）。それを紹介した江坂は、「特異な土版」としながらも「これは他の土版と同一目的をもってつくられたものかどうかは、はなはだ疑問である」との見解を示していた（江坂 1960）。次いで新潟県上山遺跡に関して、上原甲子郎（上原 1961、1964）は、「土器の胎土と同じように砂粒を混入した粘土を楕円形に延ばし、幼児の右足の圧痕を明瞭に付した土版」とし、「足形付土版」と呼称している。一方、「日本原始美術 2、土偶・装身具」（甲野 1964）の中の虚空蔵遺跡例の解説を担当した可児弘明は、「足形土製品」の名称を用いている。また、上山遺跡例が、昭和46年6月、国の重要文化財の指定を受けた際の名称は、同遺跡の巻貝形土製品に対応する形で「足形付土製品」となっている（註4）。以降の各文献は、この三つの範疇を脱するものではない。

- |           |          |   |
|-----------|----------|---|
| A. 足形付土版  | ……………土版  | } |
| B. 足形土製品  | ……………土製品 |   |
| C. 足形付土製品 | ……………土製品 |   |

Aは現在のところ最も普遍的に用いられている名称であろう（註5）。だが、この名称は当然縄文時代の他の土版との関係が問題となる。土版・岩版の用途等に関する研究は遅れているものの、その出現・展開期は縄文時代晩期にあたりとされている。その点で、足形を付すこれらの土版状の土製品が、縄文時代後期前半期まで遡るとすると、土版の系譜を単純にあてはめる

ことはできないのではなからうか。従って“土版”の名称を現在の段階では付すべきではないと考えるものである。Bの名称は、足そのものを摸した土製品と誤解される可能性がある。前述の青森県三内沢部遺跡の「足状土製品」等の存在を考慮し、たとえ両者が同一の用途・目的の下で製作されたものだとしても、現在のところは分離しておくべきと考える。

従って現時点では、用途・目的を暗示する“土版”という名称はなじまないものとして、既指定名称を踏まえ、足形付土製品と呼ぶのが妥当であると考え。また、手形付土製品との関係で、両者の総称等も今後は検討しなければならないであろう。

#### 〔考察〕

足形付土製品は、形態上から大きく二分できる。ひとつは美々5遺跡のように扁平な粘土板に足形を付けるものであり、もうひとつは足形に沿うように整形されるものである。また、装着のためと思われる穿孔が、踵方向にあり、縦に垂下するものと、横位に装着するもの等がある。しかし、今のところ、類別によって明確な差が出てくるという要因はなく、今後の資料増加を待つべきであろう。この足形付土製品が破碎されて出土していること、踵部分の圧痕が弱いことなどを考え合わせると、これまで土版あるいは版状土製品等として処理されてきた資料中にも、相当するものが出てくる可能性が高い。

用途に関しては、これまで通過儀礼に係るものとの説が多く出されている。しかし、美々5遺跡での土壌からの出土状態等を考慮すれば、埋葬時の副葬品、あるいは破碎される例が多いことから呪術的な面も無視できないのではなからうか。しかし、用途についてもこれ以上論ずることは良好な出土状態に恵まれない本資料には限度があるものと思われる。

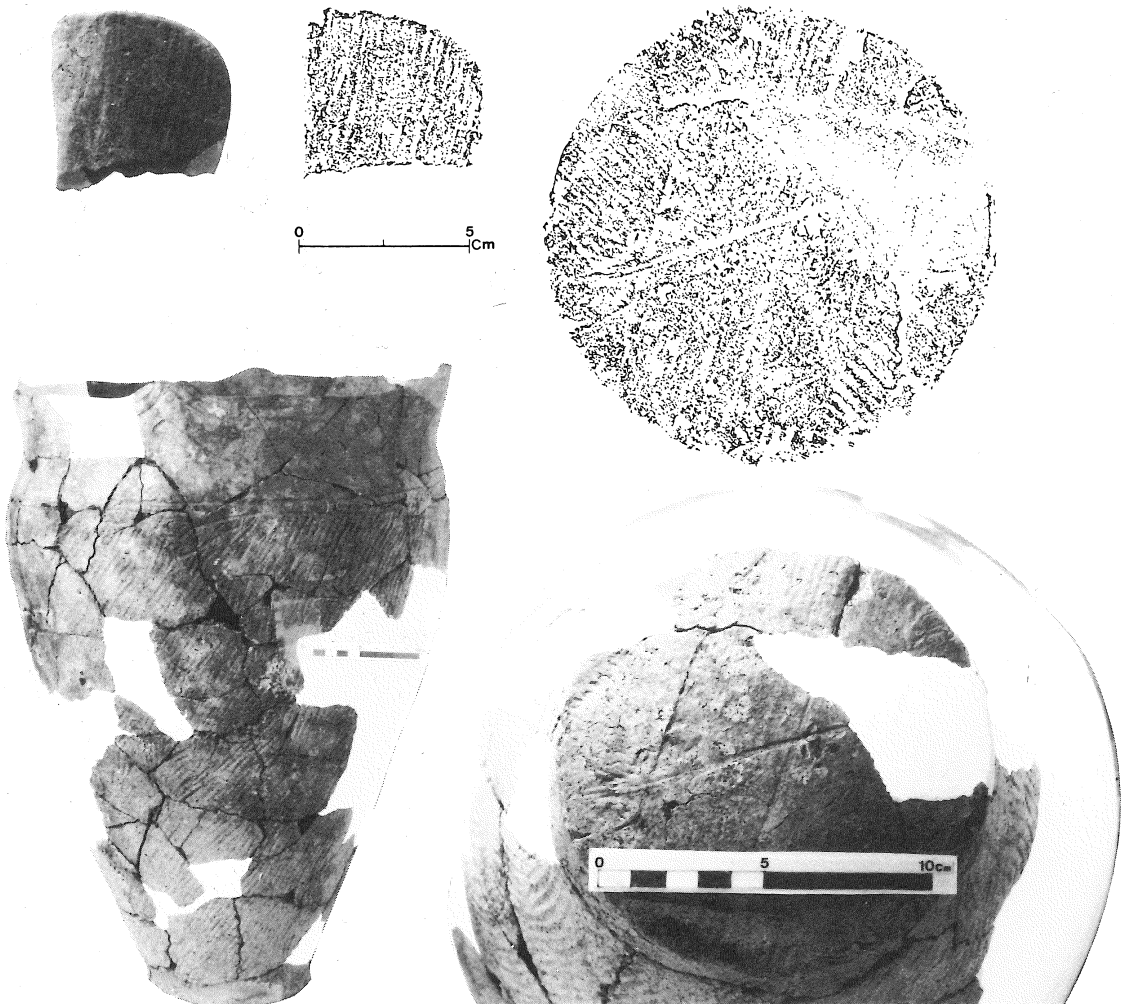
#### （註）

1. 青森県埋蔵文化財調査センター・遠藤正夫氏の教示による（遠藤 1986）。
2. 昭和61年1月11日付、河北新報記事による。
3. 虚空蔵遺跡はかつて平貝塚と呼称されていた遺跡である。
4. 昭和58年刊行の「新潟県史 資料編1 原始・古代」では、足形付土版の名称を用いている。
5. 例えば、春成秀爾 1985 「子どもの考古学」 歴博10 p.14 国立歴史民俗博物館等があげられよう。

#### （参考文献）

- 青森県教育委員会 1978 『三内沢部遺跡』 青森県教育委員会（同県埋文報告41集）  
上原甲子郎 1961 「巻貝形土製品 一新潟県・上山遺跡出土」『考古学雑誌』47-3 p.50  
日本考古学会

- 〃 1964 「図版解説 208 足形土製品」『日本原始美術 2』 p.186
- 江坂 輝弥 1960 『土偶』 p.168・169 校倉書房
- 遠藤 正夫 1986 青森県大石平(1)遺跡出土の「手形付土版」・「足形付土版」考古学雑誌  
71-4 p.110~114
- 可児 弘明 1964 「図版解説 209 足形土製品」『日本原始美術 2』 p.186
- 金子 裕之 1982 「縄文時代Ⅲ（後期・晩期）『日本の美術』 191
- 北海道教育委員会 1979 「美々 5 遺跡」『美沢川流域の遺跡群Ⅲ』 p.63~267
- 北海道埋蔵文化財センター 1985 『建川 1 遺跡・新道 4 遺跡 一 津軽海峡線（北海道方）  
建設工事埋蔵文化財発掘調査概報一』



足形裏面・土器底部 植物繊維圧痕